



宇和島奥南地区から考える

「地域おこし協力隊」のテーマ

「移住者だからこそ発揮出来る地域の魅力と価値の創造」

宇和島市吉田町奥南地区 地域おこし協力隊
宇和島奥南エンゲージメント 代表

渡部 武士



はじめに

私は昨年九月より、宇和島市吉田町奥南地区に柑橘農業の担い手として鎌倉から移住してきました。故郷は東温市で

すが、人生の大半は都市部で生活し、料理人や飲食企業経営、外資系ホテル、大手証券会社勤務という経歴に「どこに宇和島と柑橘就農の接点か？」と言われま

地域おこしは「自分おこし」

着任後、複数の柑橘農家のもとで柑橘農業を学んでおりますが、毎日が新鮮な学びで面白く、暮らしてもベッドから起きて窓を見れば海という自然豊かな環境で日々を満喫しています。とにかくどの様な事でも毎日楽しく過ごしています。これは「楽しくなることを探して掘り当てている」と言えば良いでしょうか。

途中宇和島出身の方とお会いし、「宇和島はのんびりしていて優しい人柄だから是非おいで」という導きに、宇和島に立ち寄りました。目に映る宇和島の美しさに魅了されたことで移住を決意し、幾多のご縁で協力隊というアプローチで移住しました。

柑橘就農は「大のみかん好き」という理由だけでした。事前視察で移住体験をしつつ、地域の優しい人間性と笑顔に触れたことが大きく、決め手も職種選択もすべては「地域の方との未来に展望が描けたこと」でした。

地域おこし協力隊は特に過疎化地域の活性化のために委嘱されますが、私の力では即時に地域を変革させられないかもしれないかもしれません。ですが移住者自らが前向き且つ積極的に地域と交流することが、着実な地域づくりに結びつき、あらゆる活性化の種になりうると思っております。

個人的には、地域おこしは自分自身の生活と心を豊かにしてこそできることではないかと考えています。他の協力隊員とも「移住して楽しくなければ移住そのも



お遍路(平成28年6月)



のに意味がないだけでなく、ポジティブな地域活性化へと注力することは出来ない」と話します。協力隊の多くの方が「移住促進、農業・漁業の習得、カフェやお店を作って地域活性化を目指します」と掲げていると思います。ここで重要なのは目標に対する道筋にあると考えます。農業・漁業を心から楽しめるか？お店作りを地域ぐるみで楽しめるか？未来に笑顔があるか？をまず考えるべきかもしれません。自発的でないネガティブな思いでは建設的な地方創生は困難でしょう。逆に地域からAだBだという押しつけも逆効果です。すべては「自分を奮い起こしたその力を地方創生に活かす」ことに注目し、隊員と地域の方双方がお互いの交わりを楽しみながら、その糸口を探ることを考えると、「地域のコミュニティに答えがある」と思えるのです。

私が見つけた価値創造は「柑橘ジュース」

昨年より公務とは別に個人事業「宇和島奥南エンゲージメント」と称し、柑橘ジュース専門店を開業しました。これは地域での活動や交流から見つけた「柑橘果実の価値創造」に注目し、高品質な柑橘を生む奥南地区を都市部へ知ってもらおう良き機会と、人材還流を目指し活動しております。美味しいジュースを都市部へお届けすることを「宇和島の底力のひとつ」として示したい意思があるのです。こ



当店特性の蜜柑ジュース3種類

の活動が地域にとって正解か不正解かは不明ですが、この立場を活かし、新しい産業創出も果敢に攻めることができるのではないかと考えます。全ては地域の方との「エンゲージメント」で生まれた望みの種を芽吹かせ、育てるのが私で、その土壌が「地域」で、肥料やいざというときのサポートが「官公庁」ではないかと思うのです。宇和島市は、生み出す産物の高い品質と豊富なバリエーションという土地柄は全国有数だと感じています。

地域おこし協力隊のテーゼ

愛媛で楽しく幸せな移住を実現すること、それが自分おこしであり、そのコミュニティから生まれるものが「地域おこし」であり、協力隊は自らの笑顔や幸せを地域に届けることで生まれる「移住者の底力」を地域に提供し、芽吹かせ華を咲かせる役割を持った非常に重要な「人材」である、これが私の奥南地区から見えてきたテーゼです。

愛媛県は私達を幸せな生活へと導く豊富な資源と産物、そして「愛顔あふれる地域の人々」が住まう豊かな地があるのですから。



奥南地区の蜜柑収穫風景